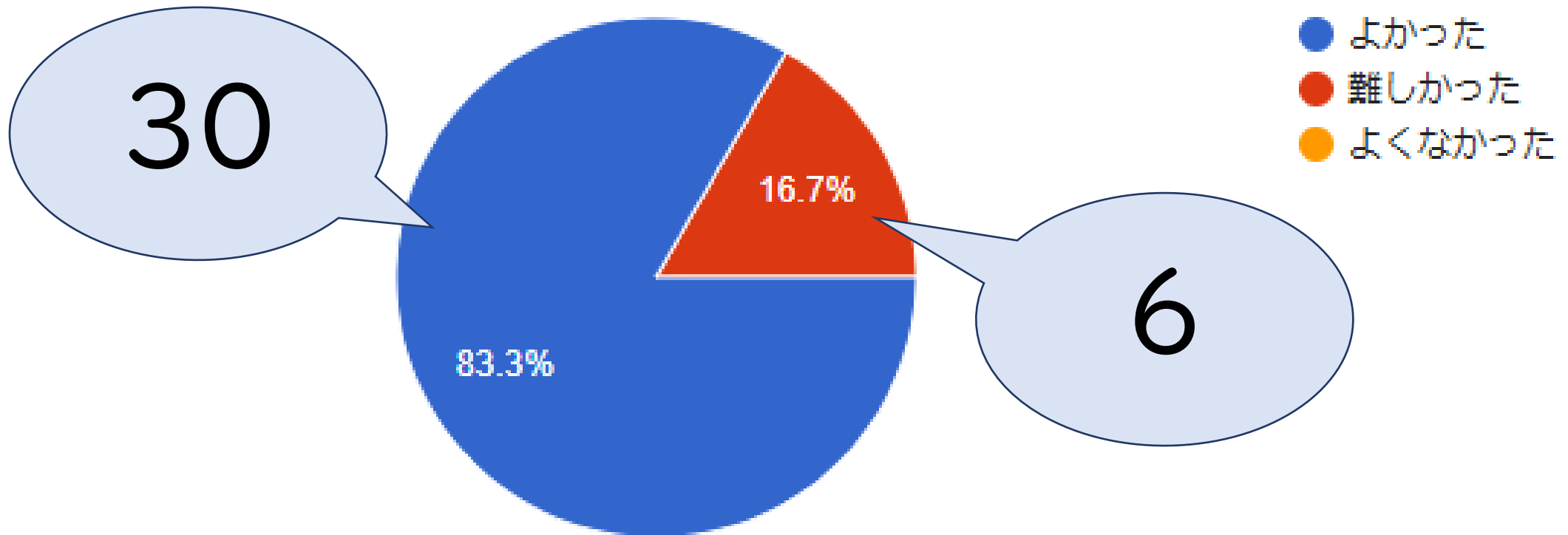


令和6年度の研修のまとめ

1. 令和6年度のテーマ設定について

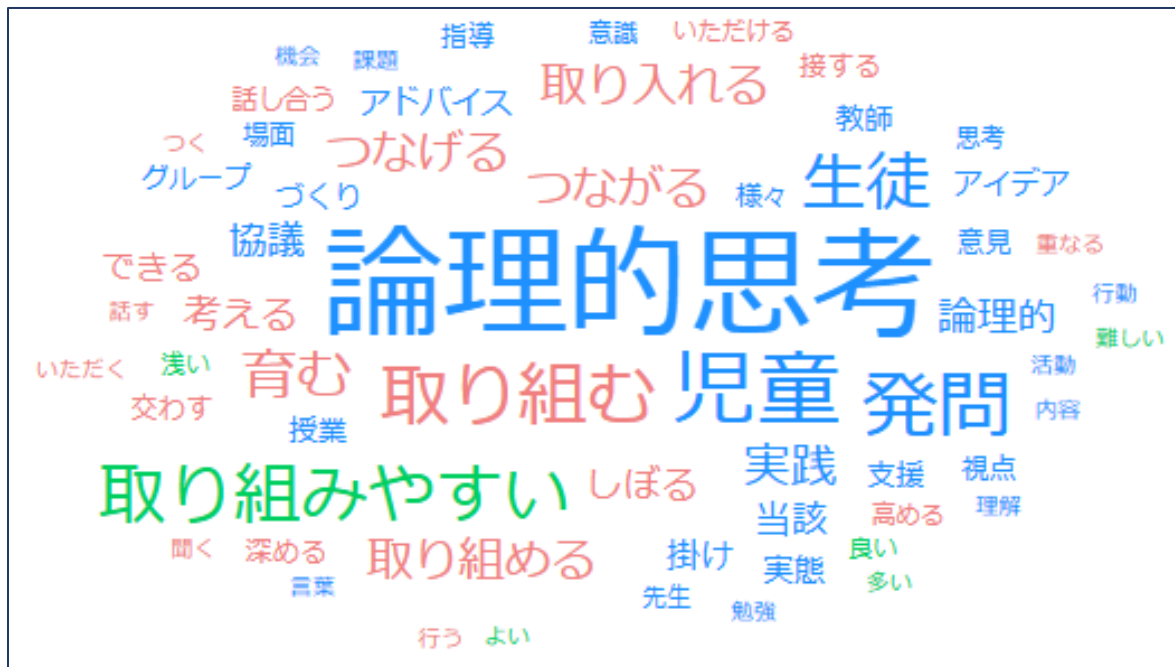
令和6年度研修の目的

『「論理的思考」を育む』視点に着目し、子供たち自身が考え、自ら学ぼうとする授業展開について深める。

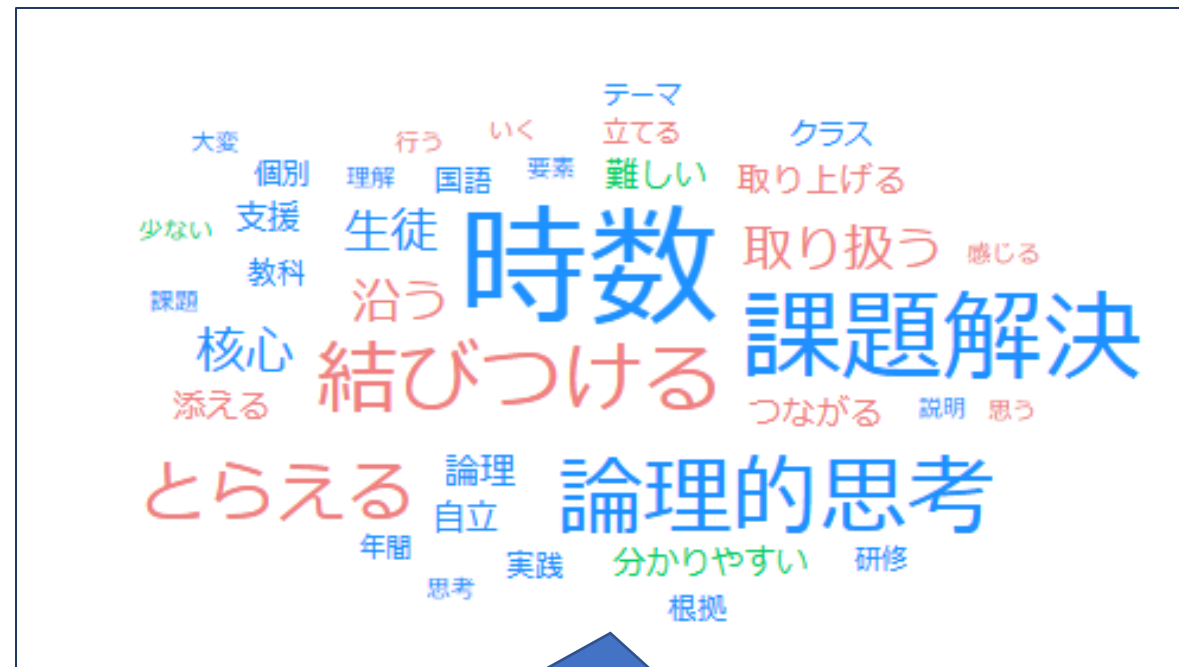


○全学部を通して

【よかった】



【難しかった】



各個人で設定したテーマについて
・指導する時間（場面）
・実態把握、課題設定

青：名詞
赤：動詞
緑：形容詞

[illegible]

論理的思考
普段の生活
取り組む
先生
生徒
話し合う
グループ
定期的
実践
共有
意見
様々
掛け
思考
自分たち
実践
困る
実態
観点
接する
もらう
検討
いただく
活動
手段
修正
見える
自身
担当
クラス
スパン
長期
良い
浅い
アドバイス
関わる
考える
振り返る
できる
進める
取り入れる

A word cloud visualization showing various concepts related to learning and education. The central and largest words are "生徒" (Student) in blue and "取り組める" (Can be tackled) in red. Other prominent words include "アイデア" (Idea), "プログラミング" (Programming), "協議" (Discussion), "取り組み" (Tackling), "論理的思考" (Logical Thinking), "育む" (Nurture), "実践" (Practice), "手立て" (Methods), "つながる" (Connect), "授業" (Lesson), "決める" (Decide), "参加" (Participation), "感じる" (Feel), "当該" (Appropriate), "一つ一つ" (One by one), "グループ" (Group), "話す" (Talk), "考える" (Think), "いただく" (Receive), "活発" (Active), "つくる" (Create), "いただける" (Can be received), "づくり" (Making), "参考" (Reference), "教える" (Teach), "有難い" (Grateful), "難しい" (Difficult), "アドバイス" (Advice), "理解" (Understanding), "悩む" (Worry), "実態" (Actual Situation), "意見" (Opinion), "分析" (Analysis), "見える" (Visible), "先生" (Teacher), "意識" (Consciousness), "広がる" (Expand), "建設" (Construction), "伸ばす" (Extend), "良い" (Good), "答え" (Answer), "見解" (Viewpoint), "内容" (Content), "出す" (Output), "できる" (Can do), "視点" (Perspective), "取り組む" (Engage in), "場面" (Scene), "繋げる" (Connect), "取り入れる" (Incorporate), "しぼる" (Narrow down).

4

■ 名詞 - ■ 動詞

名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
児童 - 考える	0.46	2
仕方 - 考える	0.46	2
グループ - 取り組む	1.00	1
児童 - 至る	1.00	1
児童 - 掛ける	1.00	1
指導 - 取り組む	1.00	1
方法 - 取り組む	1.00	1
協議 - 取り組む	1.00	1
効果 - 高める	1.00	1
姿 - 深める	1.00	1
設定 - いく	1.00	1
支援 - 交わす	1.00	1
先生 - 交わす	1.00	1
先生 - 話す	1.00	1
意見 - 交わす	1.00	1

小学部

■ 名詞 - ■ 動詞

名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
生徒 - 困る	1.00	1
先生 - いただく	1.00	1
確認 - 進める	1.00	1
アドバイス - もらう	1.00	1
アドバイス - いただく	1.00	1
取組 - 振り返る	1.00	1
意見 - 取り入れる	1.00	1
意識 - 関わる	1.00	1
担当 - 困る	1.00	1
教師 - 考える	0.50	1
論理的思考 - 考える	0.50	1
活動 - 考える	0.50	1
観点 - 考える	0.50	1
授業 - 考える	0.50	1
自分たち - 取り組む	0.50	1

中学部

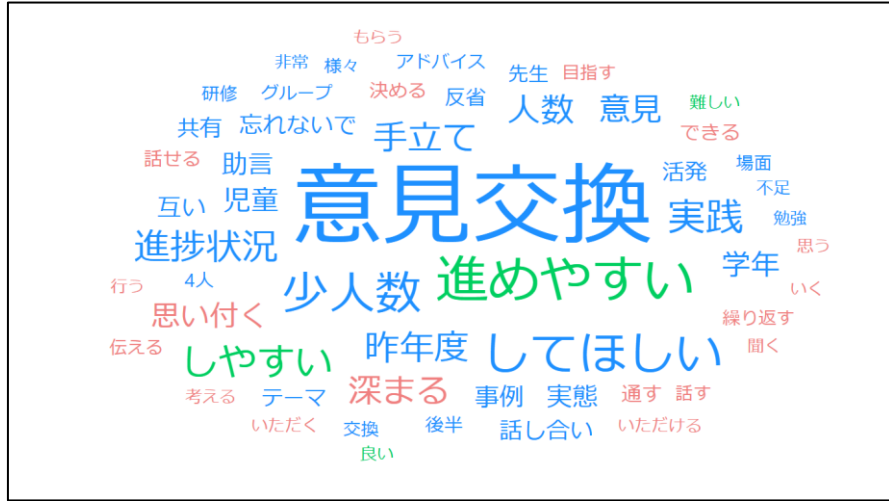
■ 名詞 - ■ 動詞

名詞 - 動詞	スコア	出現頻度
生徒 - 考える	2.00	3
グループ - できる	0.50	2
生徒 - 伸ばす	1.00	1
思考 - 育む	1.00	1
活用 - 決める	1.00	1
有無 - 決める	1.00	1
支援 - 話す	1.00	1
方法 - 話す	1.00	1
アドバイス - 貰える	1.00	1
手立て - 聞く	1.00	1
グループ - いただく	1.00	1
意見 - いただく	1.00	1
アイデア - いただく	1.00	1
授業 - 取り組める	1.00	1
運動 - 行う	1.00	1

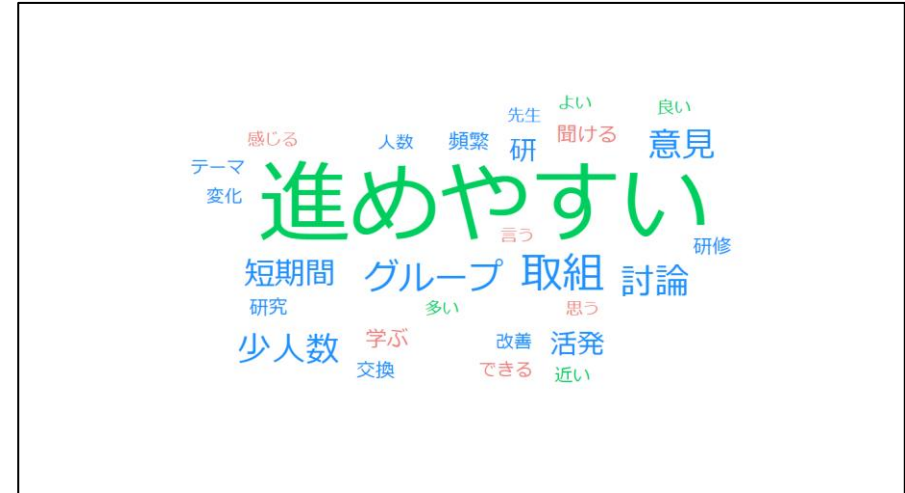
高等部

年齢(学部)に関わらず、
同じキーワードが多い。
テーマ設定が有効であった。

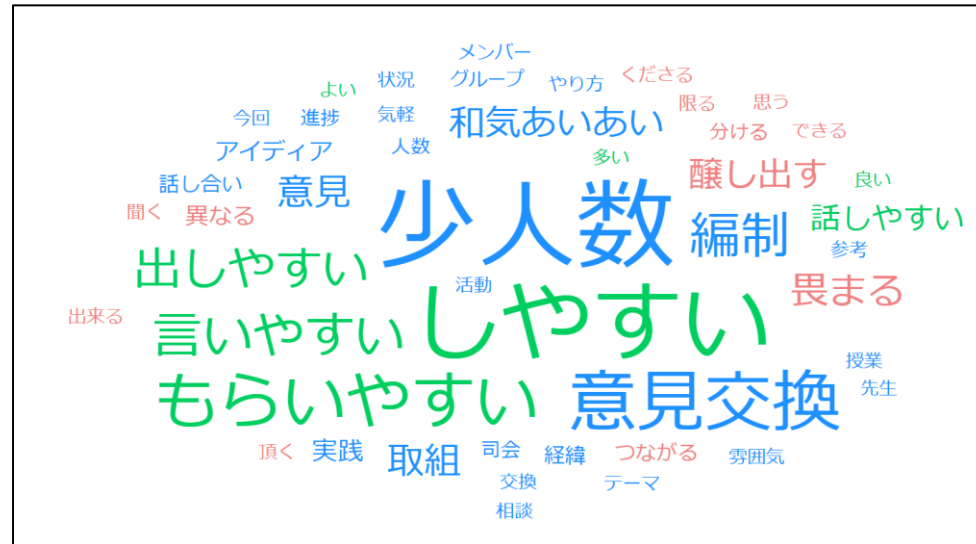
2. 学部研について



小学部



中学部



高等部

■ 名詞 - ■ 形容詞

名詞 - 形容詞	ネガポジ	スコア	出現頻度
人数 - しやすい	中立	2.40	3
意見交換 - しやすい	中立	1.20	2
意見交換 - 難しい	ネガティブ	1.00	1
少人数 - 良い	ポジティブ	1.00	1
先生 - 良い			
意見 - 良い			
内容 - 進めやすい			
話し合い - しやすい			

1ヶ月での変化が見え
づらく、意見交換が難
しい時もあった。

■ 名詞 - ■ 形容詞

名詞 - 形容詞	ネガポジ	スコア	出現頻度
研究 - 近い	ネガティブ	1.00	1
頻繁 - よい	中立	1.00	1
グループ - よい	中立	1.00	1
グループ - 進めやすい	中立	1.00	1
人数 - 良い			
意見 - 良い			

研修よりも研究に近い
ように感じた。

小学部

中学部

全学部似たキーワードが多い。
グループ研のやり方は有効であった。

■ 名詞 - ■ 形容詞

名詞 - 形容詞	ネガポジ	スコア	出現頻度
少人数 - しやすい	中立	2.50	4
意見交換 - しやすい	中立	0.75	2
やり方 - よい	中立	1.00	1
少人数 - 言いやすい	中立	1.00	1
意見 - 出しやすい	中立	1.00	1
意見 - 言いやすい	中立	1.00	1
話し合い - しやすい	中立	0.25	1
活動 - しやすい	中立	0.25	1
気軽 - しやすい	中立	0.25	1
相談 - しやすい	中立	0.25	1

少人数でやりやすい。
意見を出しやすい。

高等部

「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員 集団の形成～（答申）（中教審第240号）

「新たな教師の学びの姿」の実現

- 子供たちの学び（授業観・学習観）とともに**教師自身の学び（研修観）**を転換し、「新たな教師の学びの姿」（個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」）を実現する

令和4年答申から

総論「4.(1)『新たな教師の学びの姿』の実現」から

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められる命題である。つまり、教師の学びの姿も子供たちの学びの**相似形**であるといえる。

教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく**探究的な学び**を、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが必要になる。

5. 研修の進め方

令和6年度研修の目的

『「論理的思考」を育む』視点に着目し、子供たち自身が考え、自ら学ぼうとする授業展開について深める。



ゴールイメージ

子供：自ら考え、試行錯誤しながら主体的に学習に取り組む姿

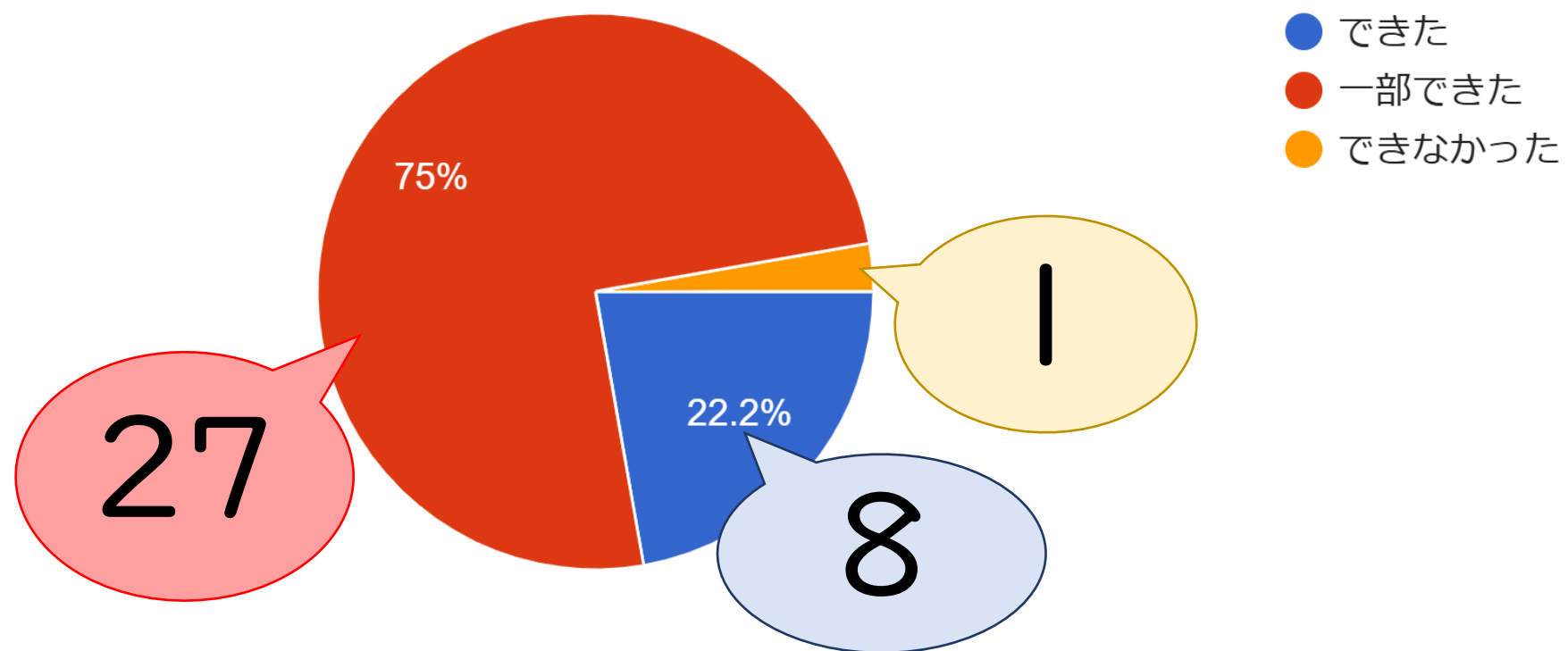
職員：子供たちの教育的ニーズを捉えながら、学ぶ意欲を引き出したり、授業展開を工夫したりする姿

32

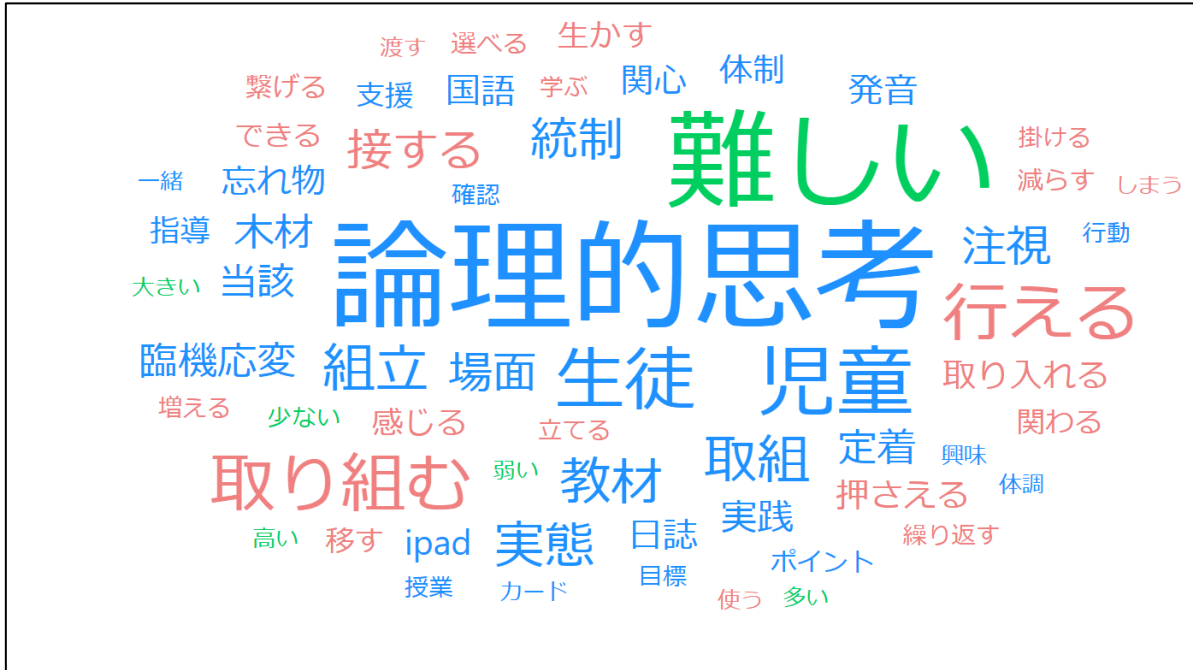
児童生徒自身が考え、気づき、自ら学ぶことができるよう、教師自身も考え、話し合いながら実践を行うことができた。

④グループ研の記録用紙に記入しているゴールは達成できましたか。選択してください。

36 件の回答



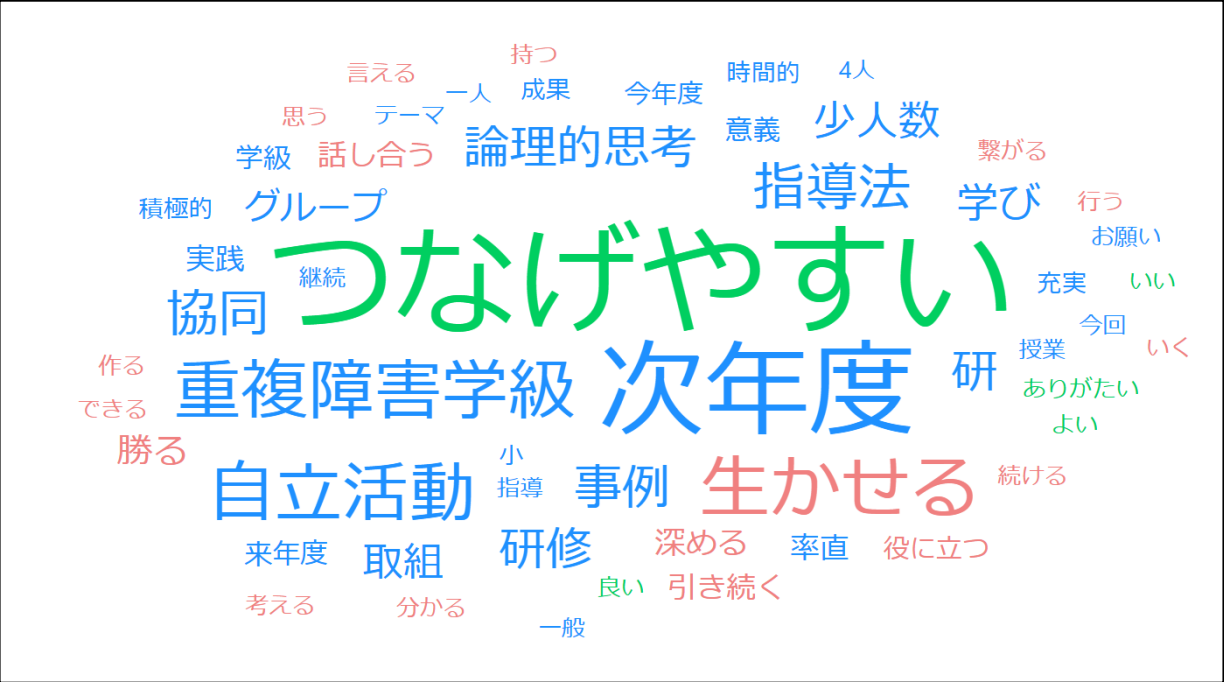
○「一部でできた・難しかった」



■ 名詞 - ■ 形容詞					
名詞 - 形容詞		ネガポジ	スコア	出現頻度	
忘れ物 - 多い	🔍	中立	1.00	1	
目標 - 大きい	🔍	中立	1.00	1	
興味 - 高い	🔍	中立	1.00	1	
関心 - 高い	🔍	中立	1.00	1	
機会 - 少ない	🔍	中立	0.67	1	
教材 - 少ない	🔍	中立	0.67	1	
定着 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
生徒 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
確認 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
提示 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
論理的思考 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
言葉 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
習慣 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
理解 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
優先 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
維持 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	
組立 - 難しい	🔍	ネガティブ	0.11	1	

- ・目標設定
- ・自発的な行動の定着
- ・日常生活への般化
- ・支援体制上の課題
- ・授業形態による課題（集団での授業、個別での授業）

3. 次年度に向けて



■ 名詞 - ■ 動詞			
名詞 - 動詞	スコア	出現頻度	
グループ - 作る	1.00	1	
グループ - 深める	1.00	1	
グループ - 言える	1.00	1	
グループ - 行っ	1.00	1	
少人数 - 作る	1.00	1	
実践 - 話し合う	1.00	1	
実践 - 繋がる	1.00	1	
機会 - 持つ	1.00	1	
次年度 - 引き続く	1.00	1	
次年度 - 深める	1.00	1	
研修 - 続ける	1.00	1	
研修 - いく	1.00	1	
学び - 深める	1.00	1	
充実 - 考える	1.00	1	
今年度 - 作る	1.00	1	

- ・本年度のテーマの継続
- ・グループでの意見交換
- ・実践につながる研修

令和7年度の研修について

1. 本年度の体制について

研究・情報教育部
↓
研修・情報教育部に変更

~~仮説~~

~~実践~~

研究のための
実践ではなく

~~検証・考察~~

テーマ



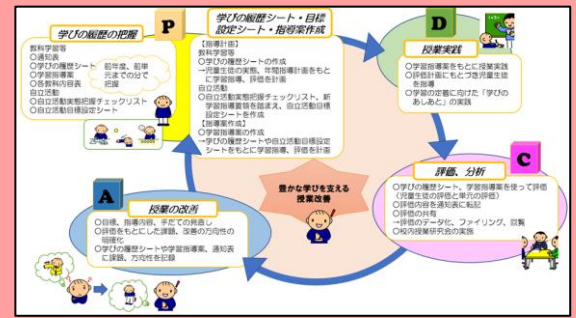
実践



実践例の
紹介、共有

・子供たちのために
・自分たちの専門性向上のために
・よりよい授業のために

みんなで実践を深めよう。



授業・取組を行う際に、
「計画→実践→評価→改善」
を行うことは必須。



教育公務員特例法第21条

- 教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず**研究**と**修養**に努めなければならない。

児童生徒対象：いかに児童生徒の基礎学力や活用力を上げていくか、
そのためのよい方策はないかを探る。

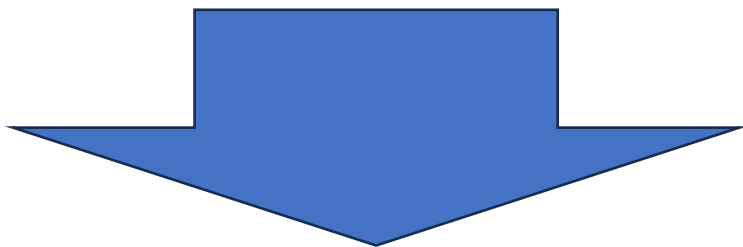
教師対象：教師自身のスキルを上げるために各自研鑽していく。

次年度もテーマを設定し、「研修」という形で実施。

○令和7年度のテーマについて

授業改善にむけて

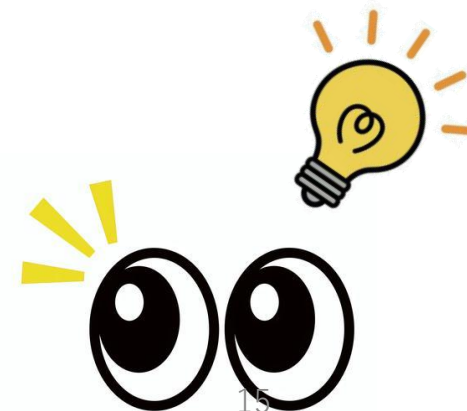
本年度の研修について
のアンケート結果



令和6年度のテーマを継続

令和6年度研修の目的

『「論理的思考」を育む』視点に着目し、子供たち自身が考え、自ら学ぼうとする授業展開について深める。



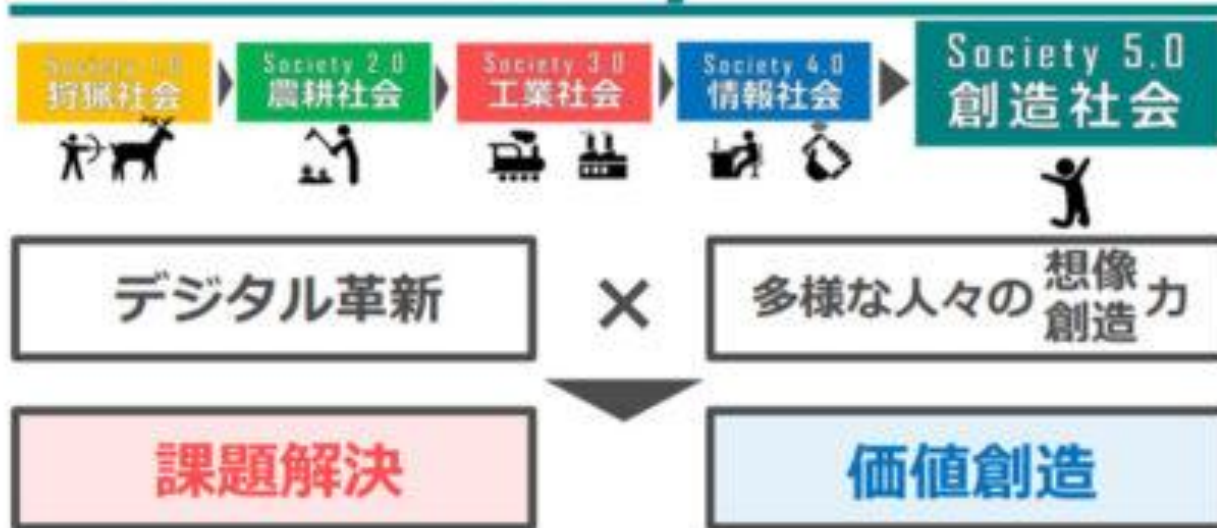
○なぜ「プログラミング教育」が必要なのか？

Society 5.0は「創造社会」

Keidanren
Policy & Action

- デジタル革新を人々の多様な生活や幸せの追求のために活用すべき。
- 今後、人々には世の中を変える「想像力」と「創造力」が必要。
- Society 5.0とは創造社会であり、「デジタル革新と多様な人々の想像・創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会」である。

Society 5.0



- ・人工知能（AI）の飛躍的な進化
- ・社会構造、雇用環境の急速な変化

予測が困難な時代

【確認】学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造
的に示す

学習内容の削減は行わない※

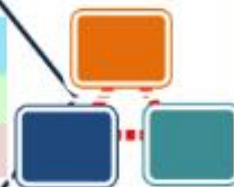
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められ
る資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高
い理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び



【確認】学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

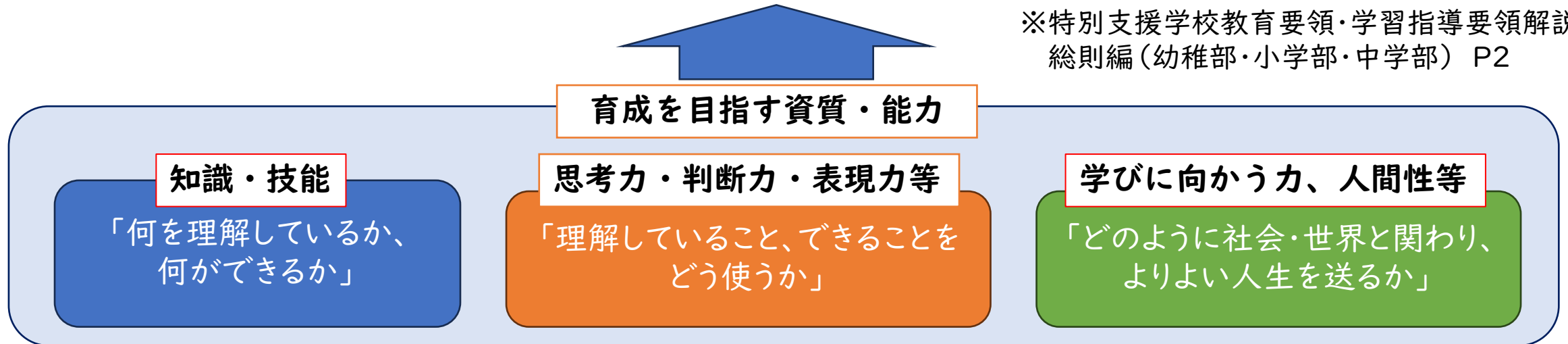
未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

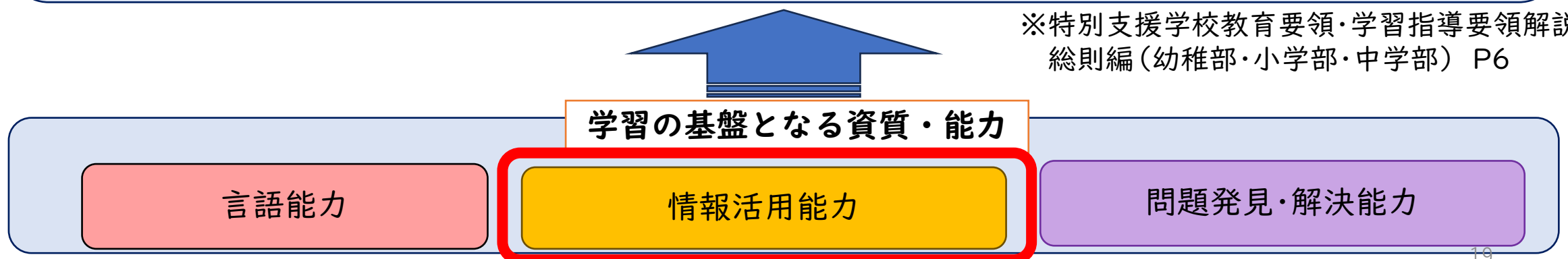
学校教育に求められていること

- ・子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと
- ・様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして、新たな価値につなげていくこと
- ・複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること

※特別支援学校教育要領・学習指導要領解説
総則編（幼稚部・小学部・中学部） P2



※特別支援学校教育要領・学習指導要領解説
総則編（幼稚部・小学部・中学部） P6



※特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） P8、P205-209

プログラミング教育の必要性の背景

- ・近年、飛躍的に進化した人工知能は、所与の目的の中で処理を行う一方、人間は、みずみずしい感性を働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかなどの目的を考え出すことができ、その目的に応じた創造的な問題解決を行うことができるなどの強みを持っている。こうした人間の強みを伸ばしていくことは、学校教育が長年目指してきたことでもあり、社会や産業の構造が変化し成熟社会に向かう中で、社会が求める人材像とも合致するものとなっている。
- ・自動販売機やロボット掃除機など、身近な生活の中でもコンピュータとプログラミングの働きの恩恵を受けており、これらの便利な機械が「魔法の箱」ではなく、プログラミングを通じて人間の意図した処理を行わせることができるものであることを理解できるようにすることは、時代の要請として受け止めていく必要がある。
- ・小学校段階におけるプログラミング教育については、コーディング（プログラミング言語を用いた記述方法）を覚えることがプログラミング教育の目的であるとの誤解が広がりつつあるのではないかと指摘もある。

プログラミング教育とは

子供たちに、**コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験**させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「**プログラミング的思考**」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、**どのような動きの組合せが必要**であり、一つ一つの動きに対応した記号を、**どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善**していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを**論理的に考えていく力**

プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力



【知識・技能】

（小）身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。

【思考力・判断力・表現力等】

発達の段階に即して、「プログラミング的思考」を育成すること。

【学びに向かう力・人間性等】

発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

こうした資質・能力を育成する**プログラミング教育を行う単位**について、**各学校が適切に位置付け、実施**していくことが求められる。また、**プログラミング教育を実施する前提**として、**言語能力の育成や各教科等における思考力の育成**など、全ての教育の基盤として長年重視されてきている資質・能力の育成もしっかりと図っていくことが重要である。

【小学校段階におけるプログラミング教育の実施例】

総合的な学習の時間	自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学び	音楽	創作用のICTツールを活用しながら、音の長さや高さの組合せなどを試行錯誤し、音楽をつくる学び
理科	電気製品にはプログラムが活用され条件に応じて動作していることに気付く学び	図画工作	表現しているものを、プログラミングを通じて動かすことにより、新たな発想や構想を生み出す学び
算数	図の作成において、プログラミング的思考と数学的な思考の関係やよさに気付く学び	特別活動	クラブ活動において実施

【実施のために必要な条件整備等】

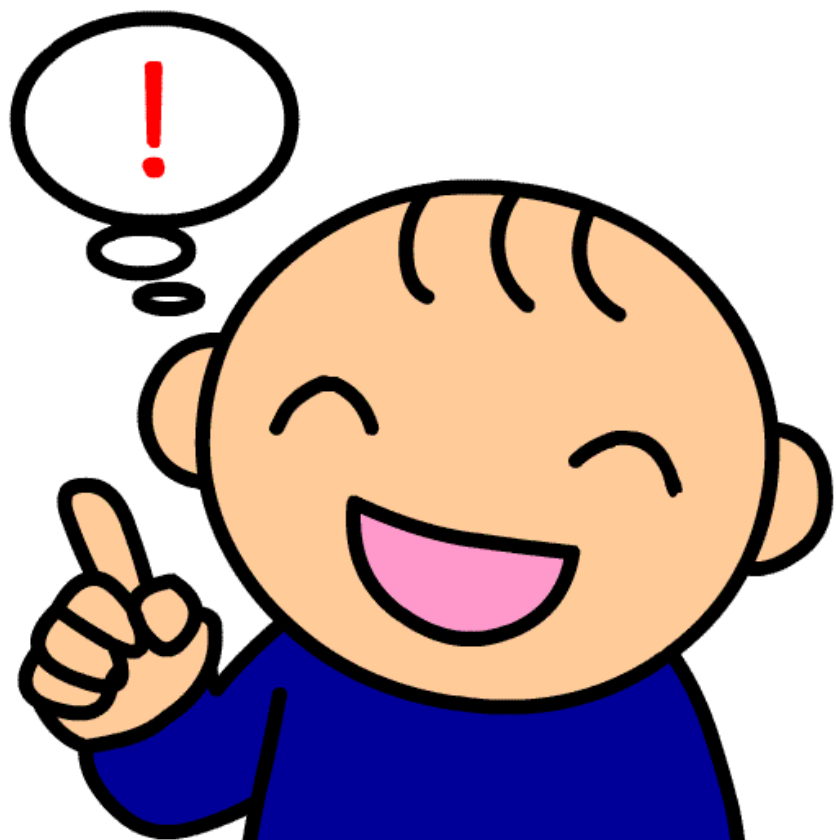
- （１）ICT環境の整備
- （２）教材の開発や指導事例集の整備、教員研修等の在り方
- （３）指導体制の充実や社会との連携・協働

プログラミング教育とは

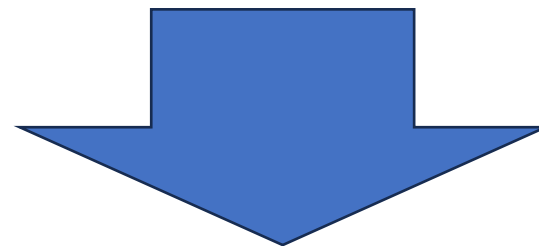
子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「**プログラミング的思考**」などを育成するもの

プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、**どのような動きの組合せが必要**であり、一つ一つの動きに対応した記号を、**どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、**といったことを**論理的に考えていく力**



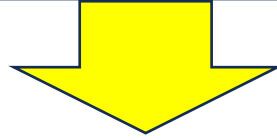
- ・全てをICTで行うわけではない。
- ・新しいことをやるわけではない。
- ・これまでの取組の中にも、論理的思考を育む取組はたくさんある。



これまでやってきた良い取組を改めて再確認しつつ、よりよい**授業展開**に向けて整理・活用する機会とする。

5 まとめ

- 児童生徒の実態把握（できること、できていることを中心に）
- 児童生徒の思考回路の把握、見立て



- 教師の言葉掛けを最終手段とし、どのような教材・教具等があったら児童生徒が主体的に考える、試行錯誤する姿に導くことができるか。
- 教師がどれだけ児童生徒の考えを予想できるか。
- 児童生徒が学んだことを活かせる場や生かしている姿を教師がどれだけ想定できているか。
- 授業と日常をどれだけリンクできているか。
- 教師がどれだけ広い視野をもって題材を考えることができるか。
- 教師がどれだけ子供主体ということを意識できているか。

5 まとめ

- 「なぜ」「なんのため」を明確に（適切な目標を設定する）
- 「どうすればいいのか」（「考える」ための工夫）
- 「やりたい」→「できてうれしい」→「認められてうれしい」
→「人の役に立ってうれしい」につなげる支援の工夫（心が動く工夫を）
- 自己選択、自己決定をする機会の確保
- 本人にとって分かりやすい評価（振り返り）
- やっていることに対する「他者からの価値付け」
- 目標をもち、チャレンジする経験（多様な経験を）

5. 研修の進め方

令和7年度研修の目的

『「論理的思考」を育む』視点に着目し、子供たち自身が考え、自ら学ぼうとする授業展開について深める。



ゴールイメージ

子供：自ら考え、**課題解決に向けて**、試行錯誤しながら主体的に学習に取り組む姿

教員：子供たちの教育的ニーズを捉えながら、**適切な具体的目標を設定し**、学ぶ意欲を引き出したり、授業展開を工夫したりする姿

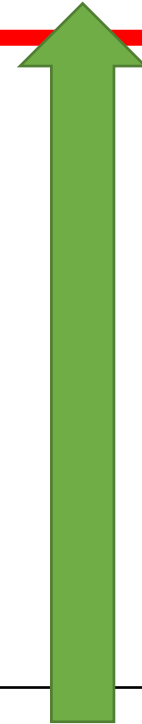
将来の姿



3年間の目標



1年間の目標



実態

校訓

健康・自立・協力・勤労

進路面談・PATHミーティング

個別の教育支援計画

→将来の姿

→3年間の目標

育てたい資質・能力一覧表

個別の指導計画

→1年間の目標



校訓

健康・自立・協力・勤労

個別の教育支援計画

個別の指導計画

→ 1年間の目標

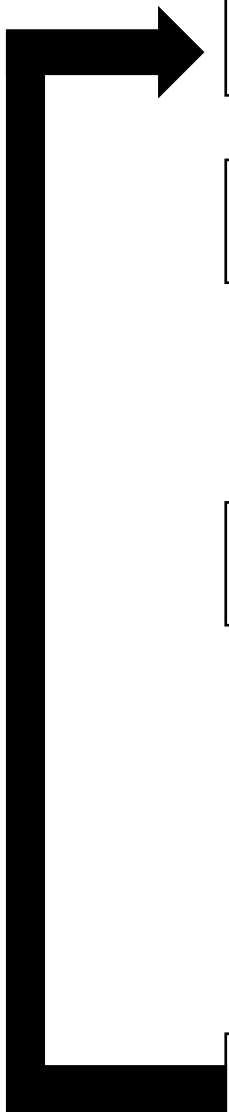
単元配列表

授業計画

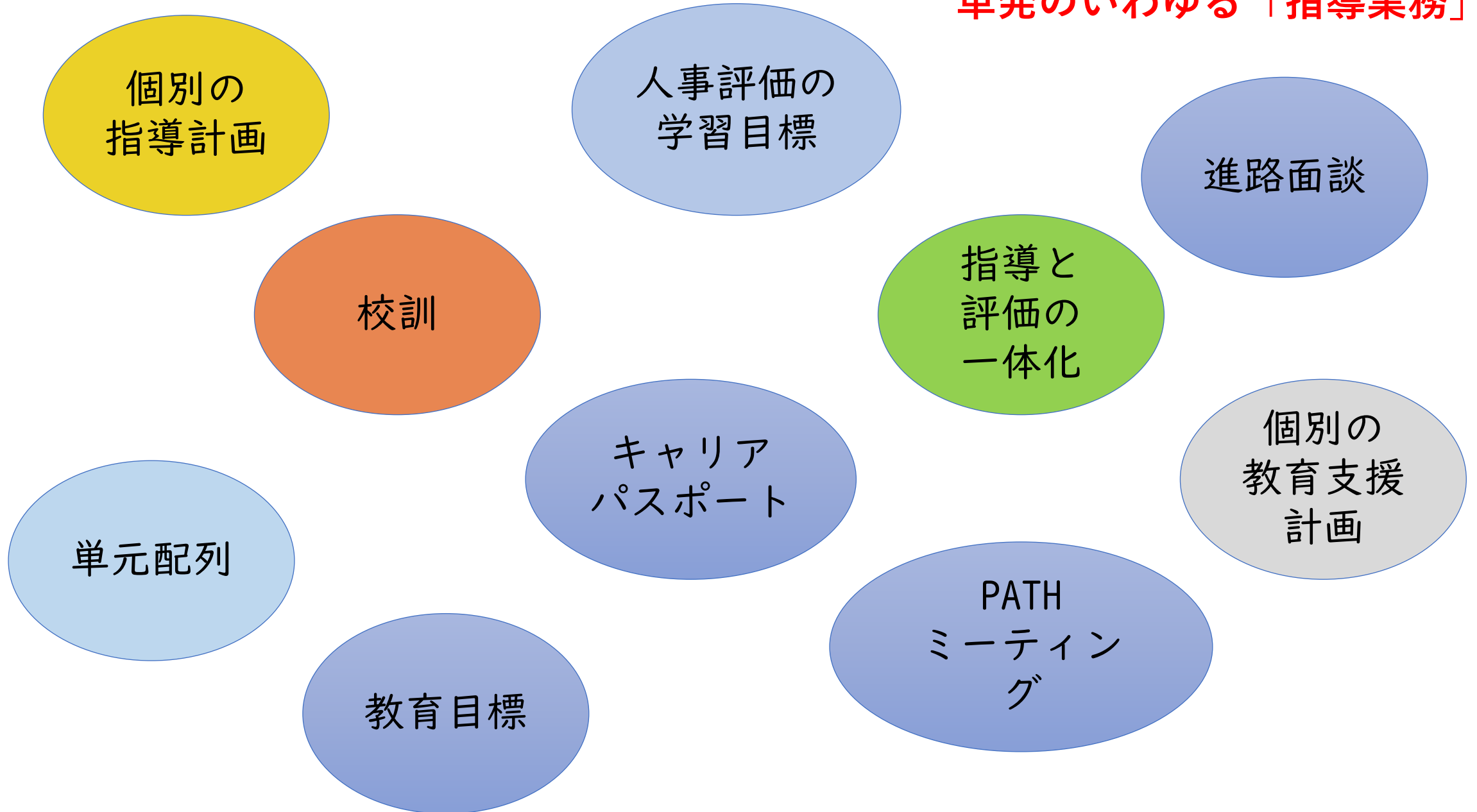
授業評価

個別面談・進路面談

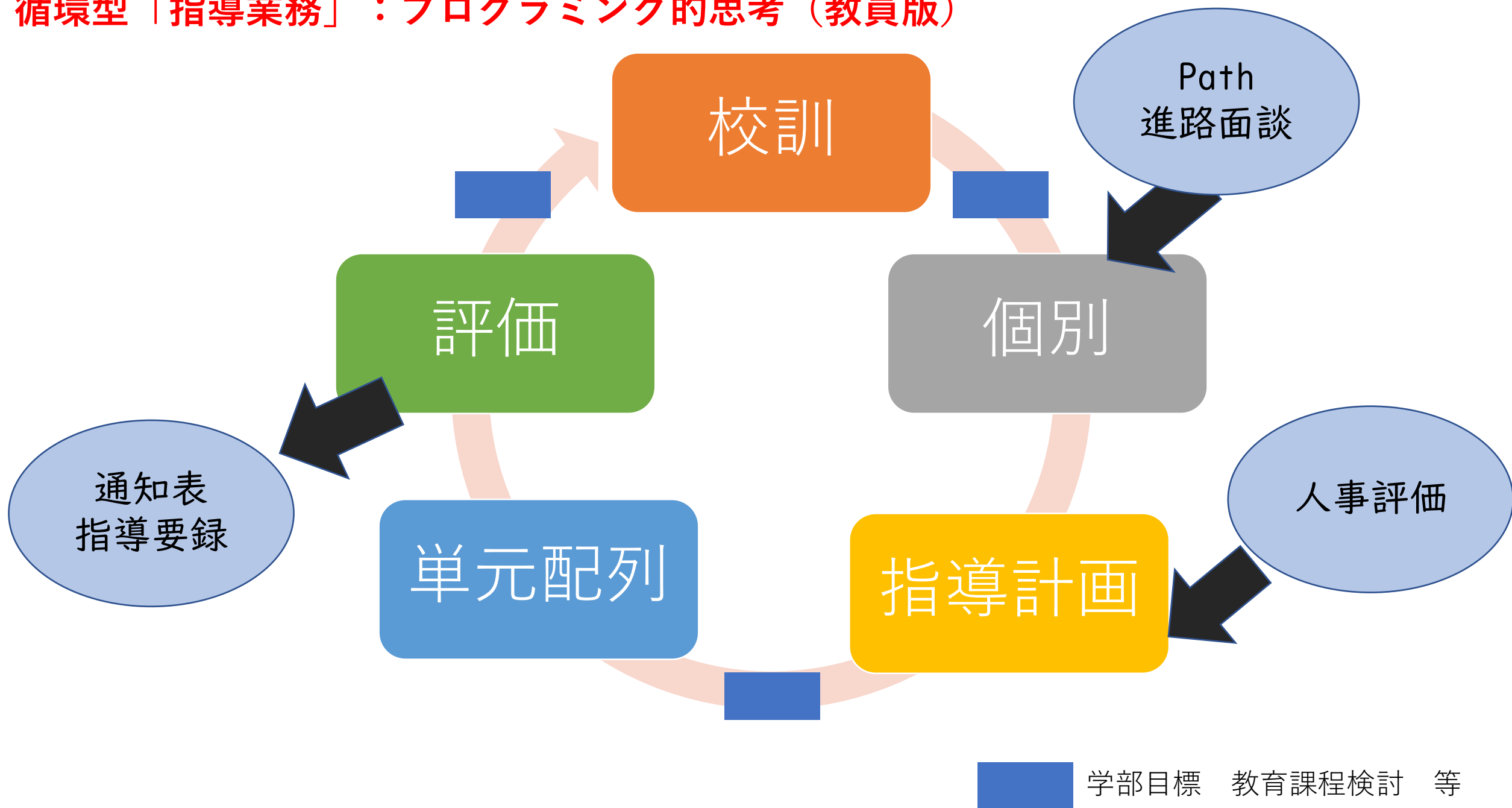
評価



単発のいわゆる「指導業務」

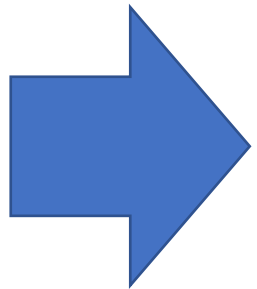


循環型「指導業務」：プログラミング的思考（教員版）



【令和7年度（案）：グループ研】

- ① 1年間通して、同じ事例。
- ② 学期ごと（1学期、2・3学期）で、事例を変更。
- ③ 2ヶ月ごとに事例を変更。



取り組み方を各個人で選択。

学部研：それぞれの取り組み方の職員が混ざるようにグルーピングを実施。

	研修(予定)	周知、共通理解(予定)
4月	★第1回研修推進委員会 ☆全体研「本年度の研修について」	①全体研修にて本年度の研究の流れの詳細について説明 ②研修形態の希望調査、グルーピング
5月	学部研①「テーマ決め」	
6月	学部研②	③研修部通信第1号発行(各学部の研修の進め方)
7月	学部研③	
8月	☆スクールサポート研修(学部研④:縦割りグループ)	
9月	学部研⑤	④研修部通信第2号発行(各学部の1学期の実践紹介)
10月	学部研⑥	
11月	学部研⑦	
12月	学部研⑧	
1月	学部研⑨	
2月	☆全体研「成果報告会」 ★第2回研修推進委員会	⑤全体研にて各学部の1年間の成果を報告
3月	☆次年度の研修について	